

第四十五回 「全日本中学生水の作文コンクール」

# 広島県優秀作文集

令和五年 広島県土木建築局

# 目次

## 優秀賞

一人一人が繋ぐ大きな一歩

福山市立東朋中学校

二年

平岩

花乃音

有限

広島県立広島叡智学園中学校

二年

近藤

莉奈

水への恩返し

広島県立広島叡智学園中学校

二年

亀岡

はなこ

## 入選

生命の水

広島国際学院中学校

二年

山田

鷹大

僕と未来

広島国際学院中学校

二年

吉田

壘翔

水資源の使い方

広島国際学院中学校

二年

森山

來美

「一人一人の水」

福山市立東朋中学校

二年

小原

希

ありがとう水

広島県立廿日市特別支援学校中学部

二年

伊東

七海

雨水から生まれる水資源

広島修道大学ひろしま協創中学校

二年

沖本

万泰

私たちと結びつく「水」

広島県立広島叡智学園中学校

二年

河田

弘千

優 秀 賞

## 一人一人が繋ぐ大きな一歩

福山市立東朋中学校 一年 平岩 花乃音

英語の授業中、私は先生の話聞いて衝撃を受けた。多くの国では水道水を安心して飲むことができないため、水を買って使用しているという話の内容だった。私は先生の話がにわかには信じられなかった。なぜなら、私の中で水道水が飲めるといふのは当たり前であったからだ。半信半疑で家に帰り、調べてみると、そこには予想を遥かに超える現実があった。中でも、アフリカの水不足問題は知ってはいったものの、深く知ると私が軽視していたのだと痛感した。屋外に土を掘っただけのトイレがあること、アフリカの汚染水により、年間三十万人以上にものぼる五歳未満の子供が命を落としていること、多くの子供達が水汲みに何時間もかかるため、学校へ通えていないことを知った。そして、私の目にあるサイトの一文が写った。それは「ダムや水処理技術では根本的な水不足問題の解決には至らない。解決するためには、そのような技術の他に、一人一人の節水などの行動が大切になってくる。」といったものだった。それから私の水に対する意識が変わった。それまで、洗顔の際に出しっぱなしにしていた水は、必要な分だけ容器に入れて使うようにした。学校でも給食前や体育後の手洗いで友達が必要以上に出していたら「節水！」と声をかけるようにした。水のありがたさを忘れないように、水関連の仕事をしている多くの人に感謝しながら使うようになった。すると、友達が「節水は確かに大事だけど、今まで気にしていなかったのに、急にどうしたの？」と私に聞いてきた。私は世界の水の状況について友達に話した。友達は真剣に聞き、話し終わると納得した様子だった。次の日、手洗い場に行くと友達が他の友達に「節水しよう！」と言った光景が目に入ってきた。後で友達に聞くと「水問題について知っていたこととはあったけど、そんなに詳しくは知らなかった。だけど、昨日の話を

聞いて私にできることをしようと思ったの。」と言った。私は驚いたのと同時に嬉しくなった。私の行動が、友達の行動に繋がったのだ。

近年、テレビやインターネット以外にも、学校の授業などでSDGsや国際問題について考える機会、知る機会が増えたと感じる。その類の話を全く聞いたことがないという人は、ほとんどいないだろう。しかしながら、いずれもあまり変化していないというのが現状だ。それは誰もが自分の行動がもたらすもの大きさを見誤っているからではないだろうか。水問題についても「自分一人が節水を心がけたからといって、世界の水不足問題の状況が変わるわけがない」と思っているからではないか。私自身も、あの経験がなければ途中で諦め、そう思っていただろう。

世界の水問題において、私は行動と発信が重要だと思う。なぜなら、世界の水の状況や問題、自分が行動していることなどを発信することで、誰かが行動を起こすかもしれないからだ。そして、その人が同じように発信すると、また誰かが行動を起こすかもしれない。たしかに、単体で見れば地道で小さな一歩だ。世界中の人が協力するのに何年、何千年かかるのか分からない。しかし、一人一人の行動や発信の繋がりが、少しずつだが水問題解決に発信の繋がりが、少しずつだが水問題解決に近づき、いつか大きな一歩になるのだと私は思う。だから、その日が来るまで私は、私にできる最善の行動を発信をし続ける。

優 秀 賞

有 限

広島県立広島叡智学園中学校 一年 近藤 莉奈

水にはたくさんの方がいる。手を洗うために使う水、洗濯するために使う水、飲むための水、ダムの水、川や海の水。このように私たちの生活とは切っても切り離せないところに水の存在があると思う。これだけ自由に水が使えてしまっている環境にいるため、有限な水資源が無限にあると錯覚してしまう時がある。しかし、当然それだけ自由に水が使えても水資源が無限になることはない。先日、私は母から母が小学生だった時の話を聞いた。母が小学生だった時、愛媛県は深刻な水不足に陥ったという。地域ごとに断水をして生活用水の使用をなるべく抑えたり、給食の食器を洗う水がもったいないと、料理が全て袋に入っていたり、今では考えられない生活を送っていたそうだ。そして私も、水資源の有限を目の当たりにした。それは夏休みで家族で桜の名所である玉川ダムにお花見に行った時のことだった。桜がたくさん咲いているとなりにダムがあった。しかしそのダムの姿に衝撃を受けた。ダムには水がほとんど溜まっておらず、川のように水が流れているだけだった。あとでダムの貯水率を見ると、平均の貯水率を大きく下回る約60%という数字がそこにはあった。愛媛県は地形的に水不足に陥りやすいことは知っていたが、実際に経験したことがなく、どこか他人事のように感じていた。しかしこれだけ深刻な状況であることを知ってから、「有限」に敏感になった。そして私は自分の生活習慣を見直し、自分ができることを見つけた。まず手を洗う時、体を洗う時は使わなかったら1回1回必ず止めること。シャワーの場合、1秒で200mlの水が失われるという。また蛇口をひねる時、あまのひねりすぎず少しづつ出すようにした。また、私が一番気を付けていることは自分の身の回りの人も巻き込んで意識改善することだ。あまり大がかりなことではできないが、例えば友達に

蛇口の水って鉛筆1本分くらいを目安に流すのが丁度いいらしいよ」シャワー15分って浴槽1杯分と同じなんだから」などの声かけをしていて、具体的な数値を用いた例を共有することでより現実味があって少しでも意識が変わると思う。実際に私の友達は蛇口をひねる時に意識して水を使っていると言ってくれた。そして、私の場合普段は複数の人と一緒に寮生活をしているので、この環境を生かして自分からより多くの人に有限を広めていきたいと思う。

## 水への恩返し

広島県広島叡智学園中学校 一年 亀岡 はなこ

滔々と水を湛えた東京湾に注ぎこむ多摩川のそばに、私の家はある。小さい頃からよく多摩川に遊びに行っていた。ある日ふと、この川はどこに行くのだろうと興味を持った。父に相談し、家族で河口まで川岸を歩いてみることにした。どこまで行っても、だいたい同じような景色。段々磯の香りがつよくなり、そして、とうとう羽田空港に到着。その向こうには海が広がっていた。河口まで来たので、今度は上流まで歩きたいと思った。そして上流に向かって歩き始めたのは、ちょうどコロナ禍でやることもなく散歩だけが楽しみな時だった。両親と弟妹の家族五人で、前に歩き終わった駅まで電車で行って、十数キロ歩き、また電車で戻る。だいたい同じような景色だと思っていた多摩川が、狭くなるのはじめ、水が澄みはじめ、遂に大きな岩が見え始めた。山深くへ歩くことができない場所もありながらも、奥多摩の小河内ダムまで到着した。

川岸を歩いていくときに、私は二つのことに気付いた。一つは川岸にたくさんゴミが落ちていていること。整備された道はそうでもないのだが、草深いところに行くと、缶やペットボトル、お弁当のゴミなど、ポロポロになったものが沢山引っかかっている。ゴミが風化して水に流れてしまえば、川や海が汚されてしまう。途中からはそれらを拾いながら歩くことになった。そして、小学校を卒業するまで、自分の家のそばの多摩川岸を用いこみ拾いをやるようになった。

二つ目は、河口に近づくと水が汚れ、川底が暗くなり、底が見えなくなっていくことだ。調べてみると、降水量が増えると浄水処理場が溢れ、家庭の排水が川に注ぎ込んで水を汚してしまうのだ。昔は自分が住んでいた多摩川近辺は泳げたというところも知った。

コロナ禍になってから、いつも以上に手を洗っていた私は、それで川を汚していたのかとショックを受けた。

私たちが住む日本では、蛇口をひねれば簡単に安全な水を手にすることができる。それが、私たちにとっての当たり前だ。だけれど、アフリカの一部など、そうではない国がいっぱいある。飲み水や炊事、洗濯、風呂、水洗トイレ、飲食店、商業施設など、さまざまな場面で私たちは水を使っている。さらに、私たちの体の中にも水はあり、成人女性で50%、成人男性で60%が水になっている。私たちの生活にとって、水は必要不可欠な存在だ。

6億6千万人もの人々が、安心して飲める水が身近になく、池や川、湖、整備されていない井戸などから水を汲んでいる。その多くは、池や川、野ざらしの井戸など飲用に適さない水で、多くの場合、泥や細菌、動物のふん尿などが混じった危険な水。多くの時間をかけて汲んだ水でも安全という保証はなくそれが原因で命を落とすこともあると分かった。また、水汲みに時間を取られ、教育が受けられない子供もいると知った。蛇口をひねれば簡単に安全な水を手にすることができる環境に感謝しなければいけないと思った。

私は少しでも自分にできることをと、ゴミ拾いをした様子を日本語と英語でSNSにアップした。すると、日本だけではなく、色々な国の人々が同じように水を大切に思い、ゴミ拾いをして環境を守ろうとしていくことが分かった。お互い励まし合っていた。

今は住む場所が変わってしまい、頻繁に多摩川のゴミ拾いをすることができなくなりましたけれど、東京に戻った時は多摩川に行きゴミを拾ったり、今住んでいるところのゴミを友達と拾ったりしている。自分達ができることは少ないかもしれないけれど、小さなことでも行動することで人を助けることができるだけでなく、普段安全な水を使うことができていることに対する恩返しにもなると思う。

## 生命の水

広島国際学院中学校 一年 山田 鷹大

私たちが生きるために最も必要なものは水です。また、水は、私たち人間が生活を送る中でもっとも利用する機会が多い物質としても知られています。では、水と生命にはどんな関係があるのでしょうか。生命は水から誕生し、水によって支えられてきました。水は生物の進化を手助けして、さまざまな生物を誕生させていったのです。その中に、地球の陸環境を大きく変えた生物もいました。生物が母の存在のような水中を離れ、陸上で生活できるようになったのも、そうした生物がいたことや、生命を維持するのに必要な水を保護する皮膚が作られたからとされています。私たち生物にとって水は、母のような存在であり、生命そのものといってもよいのです。

私は小学三年生のとき、校外学習で学校の近くの緑井浄水場に行きました。浄水場とは、水道水をつくる工場といえることができます。浄水場の役割は、水源となる川の水やダムの水、地下水などの原水を引き込み、原水のごみなどを取り除き、安全な水道水をつくることです。まず、浄水場に行こうと思いました。「こんなところから私たちが飲む安全な水道水ができているんだあ」と。最初は浄水場行きたくないと思いつつも段々と浄水場について興味が湧いてきて校外学習が楽しくなってきました。浄水場の校外学習は、最初に浄水場の方々の話を聞いて、どうやって水が出来ているのかなど教えてもらいました。それから水が綺麗になっていく過程を見学していきました。その見学が終わるとお弁当を食べて、最後に浄水場の方々から広島の水が入っているペットボトルを買いました。季節は夏だったので汗だくで家に帰り、すぐにもらった水を冷蔵庫に入れて冷やし、しばらくしてキンキンに冷えた水を一口飲みました。美味しい」とても感動しました。水ってこんなに美味しかったんだって。いつもなんとなく飲んでいた水ですが、改めて水の美味しさやありがたさに気づけることができました。

しかし今、日本の豊かな水が外国から狙われています。こんな話を聞いたことがある人は少なくないと思います。実際、世界中で水不足が発生する中、世界各地で水争奪戦はとて激化しています。土地の所有者が、その地下水も所有できると言うことなので、外国資本が日本の水源地の山林を買収してしまつたら、外国資本がそこにある水を得ることができません。日本には水を守る法律がなく、この不景気の時代のせいか土地を売却する人も多くなり、将来的に自分たちが大人になっていくに連れて、日本が水不足になるのではと自分で考えるときがあります。非常に水が豊富な日本ですが、実は水不足が発生する可能性があるそうです。では、日本の水不足が起こりうる原因はなにかと考え調べました。主な理由としてあげられるのが地形と水の使用量です。地形については、日本が大陸の国々と比べて土地が狭いことから、河川が急勾配になっており、距離も短いといった特徴があります。そのため、いくら沢山の雨が降っても海へと流れ出てしまうため、簡単には淡水の確保ができないそうです。水の使用量については、国の面積に対して人口が多いことから、一人当たりの水の使用量に換算すると世界平均の四分の三程度になるため、意外と水が足りないそうです。それに対し、日本人が使う生活用水は、世界平均の倍以上となっています。この日本の水不足を防ぐための取り組みとして、歯磨きをしている途中に水を出しっぱなしにしないといったなどの節水のような一人一人が日常的に行う些細な行動が将来的な水不足を防ぐといっても過言ではないのでしょうか。将来的な日本の水不足を防ぐためには、人間にとって欠かせない水が、これからも安心して使えるように、一人一人が水不足について意識することが大切です。

入選

## 僕と未来

広島国際学院中学校二年 吉田 聖翔

僕は小さい頃から家族と川で遊んでいた。川の中に入って遊んだり、水切りを父親と勝負をして遊んでいた。また、生き物もたくさんいたので魚を捕まえて遊んだりもしていた。

僕は地元にある川が好きだ。しかし、五年前にある悲しい出来事がおきてしまった。その出来事は、西日本豪雨だ。西日本を集中的に大雨が降り続いた。僕の住んでいる広島県海田町も大きな被害を受けた。たくさんの場所で土砂災害や崖崩れがおき、大量の砂と大きな木が川へ流れ込んでしまった。川の水位も増え、たくさん植物が流されてしまい僕が遊んでいた川は大きな被害を受けてしまった。西日本豪雨がおこった事で川は大きく変わった。

僕の母も小さい時、川で泳いだり、カニを獲って遊んでいたらしい。水はとても綺麗だった。しかし、今の川を誰も想像していなかっただろう。たくさん土が流れ込み、水は汚く、植物も減り魚の数はとても少なくなってしまった。あの自然が豊かでも綺麗だった川はどこへ行ってしまったのだろうか。僕は自然災害がおきてしまうことは誰も悪くないと思う。しかし、集中豪雨がおきてしまう理由として、温室効果力の排出量にもなる地球温暖化が原因の一つとしてあげられる。例えば、地球の平均気温が上昇すると海や地面から蒸発する水分が増加する。具体的に考えると気温が一度上がることで水蒸気の量が七パーセント増えると言われている。

これは僕たち地球に住む人々の責任ではないだろうか。自然災害がおきてしまうことは誰も悪くないし、仕方がないことだ。しかし、地球温暖化の原因である温室効果力を増やしているのは、僕たちのせいだと

思う。これは、僕一人増やしたって大丈夫だと思ってみんながしてしまった結果が今の世界環境だと思う。

僕たちが暮らすため、暮らしやすくするために、温室効果力を出さざるを得ないと思う。それは仕方のないことだ。食料を作るにしても温室効果力を出してしまうので仕方ない。しかし、一人一人が少しずつでも工夫をすることで未来に向けてのいい環境づくりになると思う。買い物へ行く時、車で行くのではなく、自転車や徒歩で行ったり、リサイクルをしてゴミを減らすようにしてもいいと思う。まずは、少しずつでも工夫や努力をしていくことが、未来のために良くなる一歩だと思う。あの被害を受けてしまった川でも未来に向けての活動をしたりしている。みんな川に落ちていたゴミを拾ったり、生き物を守るために活動をしている人が多くいる。僕も一度参加したことがある。ゴミを拾ったりするのはとても大変だった。しかし、ゴミ拾いが終わった時、川がとても綺麗になっていたのでとても感動した。僕は、これからの未来に向けて、身近な事から行動したいと思う。

今の世の中では、ウクライナ侵攻やコロナ感染者の増加といったさまざまな課題や問題点が多くある。そのような問題を解決するためには、皆が協力して行動する必要があると思う。地球温暖化の問題に対しても一人一人が努力し、協力することで少しずつでも解決できるのではない

か。僕の大切な川、自然を守るため、これからの未来を守るために行動していきたい。

## 水資源の使い方

広島国際学院中学校 二年 森山 來美

水は、生きるためになくってはならないものだ。しかし、水には限りがある。この水と、生活を続けていくにはどうしたら良いのだろうか。

水について興味を持つきっかけとなったのは、小学生の頃、今後生きていくためにはどんなことをしたら良いのかを考える授業を受けたからだ。私は総合的な学習の時間にSDG'sのゴールの一つである、海の豊かさを守ろう」を担当し、インターネットや本を使って調べたことから海や水資源について興味を持った。

水は生きるためには絶対に必要なものだ。世界中を見ても、陸地よりも海の方が面積が広い、そのとても広い海が、今、プラスチックごみで埋め尽くされかけている。現在、世界の海にはプラスチックごみだけで一億五〇〇万トンもある。毎年八〇〇万トンのプラスチックごみが流れ出ていると、二〇五〇年にはプラスチックごみが魚の数を上回ると推測されている。そうなると世界の美しい海が消えてしまうことになる。海を綺麗に保つ、水資源を大切にすることが重要である。それは最近、人間の暮らしの中で便利に、豊かになるにつれ、海が汚れたり水質汚濁になってしまったりしている。この現状を知った人間は、海や水資源を大切にしなければならぬと思う、そのための取り組みを始めている。美しい海をこの先に残して、快適に暮らすには日常生活の中で取り組めることの例は、自分用のエコバッグを持参しレジ袋はもらわない、自分用のペットボトルを使い、ペットボトルやストロークの使用を減らす、海を綺麗にする清掃活動に参加するなど、海を守るための取り組みは身の回りにたくさんある。それらに取り組みむことで海を綺麗にすることに繋がるだろう。

では、日常生活で大きく関わる水と、持続可能な水資源を確保するた

めにはどうすれば良いのか。まず、水の利用方法を見直すことが大切だ。日常生活の中で、水を使っている場面を思い浮かべ、そこでの節水に取り組む。節水とは、水を無駄にしないように、使用量を減らすことである。水を使う場面の例として、料理、歯磨き、食器洗い、お風呂、洗濯などがあげられる。料理や食器洗いではため洗いをする。歯磨きはコップに水を入れてする。歯磨きをするとき、水を三〇秒間出し続けただけで六リットルも無駄になってしまう。そのほか、お風呂では、残り湯を再利用する。浴槽には約二〇リットルも水が入っているため、半分でも一〇リットルもの再利用になる。洗車はバケツにくんだ水です。ホースを使うと約二〇分間で二四〇リットルも無駄になってしまう。このように普段の生活で何百リットルも節水が出来ることが分かる。

これらの改善案として、料理で油を使わず、使ってもそのまま流さないことや、洗剤を使いすぎないようにすることが挙げられる。もし、油や洗剤を流しすぎてしまったら海にそのまま流れ、海を綺麗に保つことができなくなる。このように、身の回りにもあるものを大切に使うことで、海を守ることに繋がるのである。

私は、水を大切に使うことで、生活が豊かになると考える。今、私たちが取り組めることを考え、実行していくことで、私たちが今と変わらず生活できたり、次の新しい命が生まれるときにたくさん綺麗な水をプレゼントしたりできる。限りのある水を使い、自分の命を守る、新しい命に繋ぐために責任を持って水を使い、守っていかねばならない。



## 「一人一人の水」

福山市立東朋中学校 一年 小原 希

皆さんは、「水」は永久にあるものだと思っていますか？ 思いませんか？

私は、中学一年生でSDG<sub>s</sub>について知ろうという授業がありました。その時に先生が私達にこんな事を尋ねてきました。

皆さんは、「水不足で困っている人が何人居ると思いますか？」

私は、この時地球には、海や川などがあるのだから、水不足の人なんて百人ぐらいたと思っています。

しかし、先生からは私が、思ってもいなかった答えが返ってきました。

世界では、約二〇億人が水不足で困っています。」

私は、この言葉を聞いて沢山の疑問が頭の中を駆けめぐりました。それが水について興味を持つ、きっかけになりました。

まず、最初に私は何故水不足を引き起こす要因についてインターネットで調べることができました。調べた結果、川の水や海の水が汚染されて利用できなくて水不足におちいるという要因と、地球温暖化による海面の温度が上昇し、大気中の水蒸気量も増え、その結果、海面から蒸発する水蒸気量も増加することによって海の水などが段々減少するという2つの要因があることを知りました。

私は、次にこの2つの要因を踏まえて、この先もし、水不足の状態が続いてしまうと、地球はどうなってしまうのだろうかという疑問を持ちました。

調べてみると、まず最初に穀物が育たなくなり、食糧危機に陥るなどや、また飲み水もなくなり、人間に必要な水分を接種することができなくなり、健康に害を及ぼすようになるということが書かれていました。私達、人間の身体のほとんどは、水分で出来ており、五パーセント失う

と脱水症状や熱中症になり十パーセント失うと、筋肉のけいれんや循環不全になります。さらに、二十パーセント失ってしまうと、死に至ります。

そうならない為に、一人一人が水を使いすぎないように工夫する必要があります。お風呂の残り湯を再利用することで少しでも、「水」を節約することができると思います。

例えば、二百リットルの半分の再利用で、百リットルの「水」を節約することができます。それを一週間続けると七百リットルの「水」を節約することができます。さらに一人ではなく、何人もの人が工夫することでより多くの水を節約することができます。

特に先進国の水の大量消費が問題になっています。日本も先進国の一カ国だから一人一人がこの問題に真剣に向き合う必要があるのではないかと私は考えます。誰かが行動するのを待つのではなく、自ら行動することが大切です。「水」は永久ではないのだから。

## ありがとう水

広島県立廿日市特別支援学校中学部 一年 伊東 七海

水の作文を書くために家々へくで実験をし、ネットで調べました。

1日に使う水はどれくらいなのか調べるために2リットルのペットボトルが6本入るハコをじゅんびしました。まず、1ハコの水をお風呂に入れました。これは、1分間に出る水の量。こんなにも水が出ていることにびっくりしました。5ハコ入れました。皿あらいの時の量。お風呂に少し水がたまりました。10ハコ入れました。洗たくをする時の量。やっと半分くらい水が入りました。いつもわたしが入るお風呂の水より少ないくらいで、わたしはつかれてきました。16ハコ入れました。あと1ハコ入れるとあふれるくらいの水が入りました。

本当にお風呂に水をいれてみてこんなに多くの水を使っていることや、1分間で1ハコを使うのでシャワーだとたくさんハコの数とペットボトルの水が必要なのに気づきました。

世界には遠くまで水を取りに行く同じ年の女の子がいて、その水は汚れているのにあたりまえに使っています。でも、そのあたりまえの水で死んだり、病気になるったりするそうです。わたしの住んでいる日本は水に対してありがたいなんて思わなくてあたりまえのように使っている国で、汚れたままの水を流している国や、じゃの水がそのまま飲めない国もあって、同じ地球に住んで必要な水に対してありがたいと思う国や、あたりまえにかんがえていない国もあるのはおかしいと思いました。水が日本のようにとつめいでキレイな色をしていないからいろいろなかんがえがあるのだと思います。

次にわたしは、ろ過実験をしました。水を、取りに行く女の子と同じ量の水をドロ水にしました。ドロ水を作るのは、カンタンで、すべにで

きがありました。最初はドロ水がそのまま出てきて汚くて、飲みたくない。おなか痛くなりそうと、思いました。何回もろ過すると、やっととつめいな水ができました。ドロ水をキレイにするには、時間が長くかかって大変でした。

わたしは県に住んでいる時に災害で水が出なくなったり時があります。その時は、いつも水が出るのに次の日になっても次の日になっても水は出なくて、どうして出ないの？明日は出るかも…いつになったら水が出るのかな？とか早く水が出てほしいと、不安になりました。やっと水が出た時はすごくうれしくて、出てくれてありがとう♡よかったーと思っだし、水がじゃ口から出てくる様子を見ると安心しました。

作文を書いて、今の生活はじゃ口からとつめいでキレイな水が出てくるのがあたりまえになっていて、わたしは、あたりまえになってしまつと、**ありがとうー**と言いたくなる気持ちになつてしまつと、気づきました。あたりまえの反対のことは、**ありがとう**だそうです。おかあさんがごはんを作ってくれるのはあたりまえ、氷がとつめいなのはあたりまえ、わたしの中に「あたりまえ」がたくさんあります。本当はあたりまえじゃないよ。ありがとうと、思う気持ちを持たなきゃいけない

と、分かりました。わたしの出来ることは、いつもの生活で、**ありがとう**と言つてほしいけど、毎日毎日つづけるのは大変だから、わたしは15日生まれだから15日の日は、**ありがとう**の日にしてわれなようにします。

今日も水がでてくれてありがとう

## 雨水から生まれる水資源

広島修道大学ひろしま協創中学校 一年 沖本 万泰

雨水に関する意識調査では、「雨水を飲めると思う」人の割合は四十七パーセントだったという。一方で、実際に雨水を飲んだことがある」と回答した人の割合は、三十パーセントだったそうだ。多くの人はとっては飲用するとなると抵抗感のある雨水だが、飲んだときに、雨水はおいしい」と言える日が、徐々に近づいてきているようだ。

福井工業大学が考案した、ある飲み物が話題を集めているという、その飲み物の名前は「あまみずサイダー」だ。ある地方ニュースでこの飲み物について初めて知ったのだが、この「あまみずサイダー」だ。ある地方ニュースでこの飲み水について初めて知ったのだが、この「あまみずサイダー」の存在は私にとって、改めて水資源について考えるきっかけとなった。

「あまみずサイダー」の原料は名前からも分かるように雨水で、福井工業大学構内で採水された雨水を使って作られているという。また、食品衛生法に基づき四十九項目の厳しい水質基準を全てクリアしており、飲料水としてしっかり認められた「雨水ドリンク」なのである。

雨水ドリンクに使われている水を作るには、降水時に集めた雨水に電気を通し、大気中の窒素や硫黄などが含まれる水ときれいな水とに選別をすることから始まる。選別したきれいな水は二種類のフィルターを通した後、不純物や匂いを取り除き、更に紫外線で殺菌をして雨水ドリンクに使われているそうだ。

ここで、雨水の元々の状態である雨について注目したい。雨の降り方は、気候変動による豪雨、渇水と極端化しているという。日本では近年、各地で記録的豪雨が観測されているが、世界規模で見ると渇水に悩まされている地域はとても多いのだ。渇水は食糧自給率三十八パーセントの

日本にとって、農水産物の輸入への影響という間接的なダメージに繋がると、他国のことと楽観視することはできない。また、地球の人口は現在八十億人だが、二〇五〇年までには百億人に達するという予測が出されており、人口増加によって一人あたりの水の使用量が増えることから、深刻な水不足が危惧されている。世界気象機関が発表した予測によると二〇五〇年には世界の五十億人、つまり二人に一人が水不足の状態に陥るとも言われている。

近い将来、起きると予測されている世界的な水不足、この問題を解決する方法の一つになり得るかもしれないのが、雨水ドリンクのような雨水の飲料水への転化利用だ。雨水は自然の循環が創り出す、まさに水の恵みである。雨水を飲用できる技術が広く普及すれば、私たちにあって新たな水資源を確保することに繋がっていく。例えば「一般家庭において雨水の飲用を含んだ利用が可能になれば、水道代の節約や、災害時に飲料水として使うことができる。また、渇水が深刻な地域への水資源の支援という点からも、大きな期待ができるのではないだろうか。

雨水をただの雨としてではなく、水資源の利用という観点から考えると、まだまだこれから多くの可能性を秘めていることに気づかされた。酸性雨や記録的豪雨のイメージから、雨水にはネガティブなイメージがつきやすく、飲用に適していると考えにくい人も多いだろう。だからこそ私は、ぜひ多くの人に水資源としての雨水の存在を知って欲しいと考えている。雨水は人にとって、最も身近に感じることが出来る水だと思う。近い将来、雨水が水資源となって私たちの喉を潤す日が来るのが、今からとても楽しみだ。

## 私たちと結びつく「水」

広島県立広島叡智学園中学校 一年 河田 弘千

安全な水とトイレを世界中に」

この文はSDGsの目標6で定められた目標です。今、世界中の二十億人の人が水道の設備がない暮らしをしています。私たちが蛇口をひねるだけで、問題なく安心・安全な水を飲めることは当たり前ではないことに気付かされました。このように思えたきっかけは二つあります。

一つ目は寮の水道管が壊れてしまい、噴水のように水が飛び出てしまったことです。約一時間出続けましたが、休日にもかかわらず建設課の方が一時的に水を止めるように作業をしてくださりました。

二つ目は家の水道が断水してしまったことです。短時間ではありましたが付近の工事の影響により急に断水してしまい、とても不便だったことは今でも覚えています。

私はこのような経験を通して水のありがたみや私たちに届いている安全な水のつながりについて興味を抱きました。そこで小学校の時に水が家に届くまでの過程の冊子が配られていたのも思い出しました。

まず雨水や川の水が貯水池に貯められて浄水場に行き浄水されて配水池に届けられていて、配水池に溜められる。そして私たちの家庭まで安全な水が届けられる仕組みを知りとても感激しました。人と水のつながりには様々な人の協力がある。裏で二十四時間管理してくださる人もいる私たちの気付いていない場所で見守ってくださっている。私はこのような方々は、縁の下の力持ち」という言葉が当てはまるのではないかと思います。

水はこのようにして私たちのもとに届いており、様々な場面で飲み水としての活躍や、皿洗いや洗濯などの家事での活躍、農業や工業などの

産業用水での活躍を遂げていることをみなさんも感じたことがあると思います。

しかし、私たちが使っている水にも限りがあります。地球は水の惑星と呼ばれており約十四億立方メートルの水があります。ほとんどが海水のため、人が生活に使える水の量はわずかでありとても少ないです。これから世界の人口は増え続けていくとされていることを知り、私たち一人一人が水を大切に使用していかないといけないという意識を持ち始めないといけないと思います。最初でも述べたように安全な水を使えない現状があります。世界中の人を一人たりとも残すことなく進んでいかないとけません。そのためにも節水などの対策を心がけていき、水の使用量を抑えることができます。些細なことかもしれませんが、

One for all, All for one.」

という精神で動いていこうと思います。

これまで水と私たちの生活との繋がりにについての思いをつづりましたが、水と災害にも繋がりがあられるのも重要なことだと思います。台風等に伴う洪水、高潮による被害や集中豪雨による短時間の降雨などの水害による被害が起こることもあります。ですが、常に水と接しているので仕方ないのではないかと思います。しかし、水害に向けての減災や防災をしていくことも大切だと思います。

水は人に幸福をもたらすような存在でもあり、不幸をもたらしてしまうような存在ではないかと思っています。私たち、人は水とうまく付き合っていくのが世界中の人が安全な水を飲んで笑顔になるためのキッカケになると思います。まさにWBC2023の日本代表の「つながる打線」のように水にも、「つながっていき笑顔の水」になるように私たちがしていくべきだと思います。

世界中の人が水を飲んで笑顔になるために行動していくべきだと思います。「最高の水未来」へ。